

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する
新たなインターチェンジ整備事業
環境影響評価方法書

説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の説明

令和 7 年 1 1 月

横浜市

1 方法書に関する説明会の開催及び方法書の概要に関する周知結果

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業における環境影響評価方法書（以下、「方法書」とします。）に関する説明会の開催の周知結果は以下のとおりです。

1.1 各住戸等へのポスティング

令和7年10月3日（金）から令和7年10月7日（火）までに各住戸へのポスティングにより、「旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業 環境影響評価方法書の縦覧及び説明会開催のお知らせ」（別添資料1）を、表 1-1 及び図 1-1 に示す対象地域に配布しました。

表 1-1 環境影響評価方法書の縦覧及び説明会開催のお知らせの配布部数

区名	町丁名	周知方法（周知範囲）	配布部数
旭区	上川井町	各住戸等への ポスティング （対象地域）	357 部
瀬谷区	瀬谷町		1,233 部
	北町		192 部
	五貫目町		1,199 部
	目黒町		131 部
	上瀬谷町		1,197 部
	卸本町		103 部
	大和市		深見
町田市	鶴間六丁目		1,085 部
合計			5,886 部

※方法書対象地域に加えて、今後の都市計画手続を踏まえて下記地域にも周知を行いました。

【瀬谷区】卸本町

【旭 区】上川井町（一部地域）

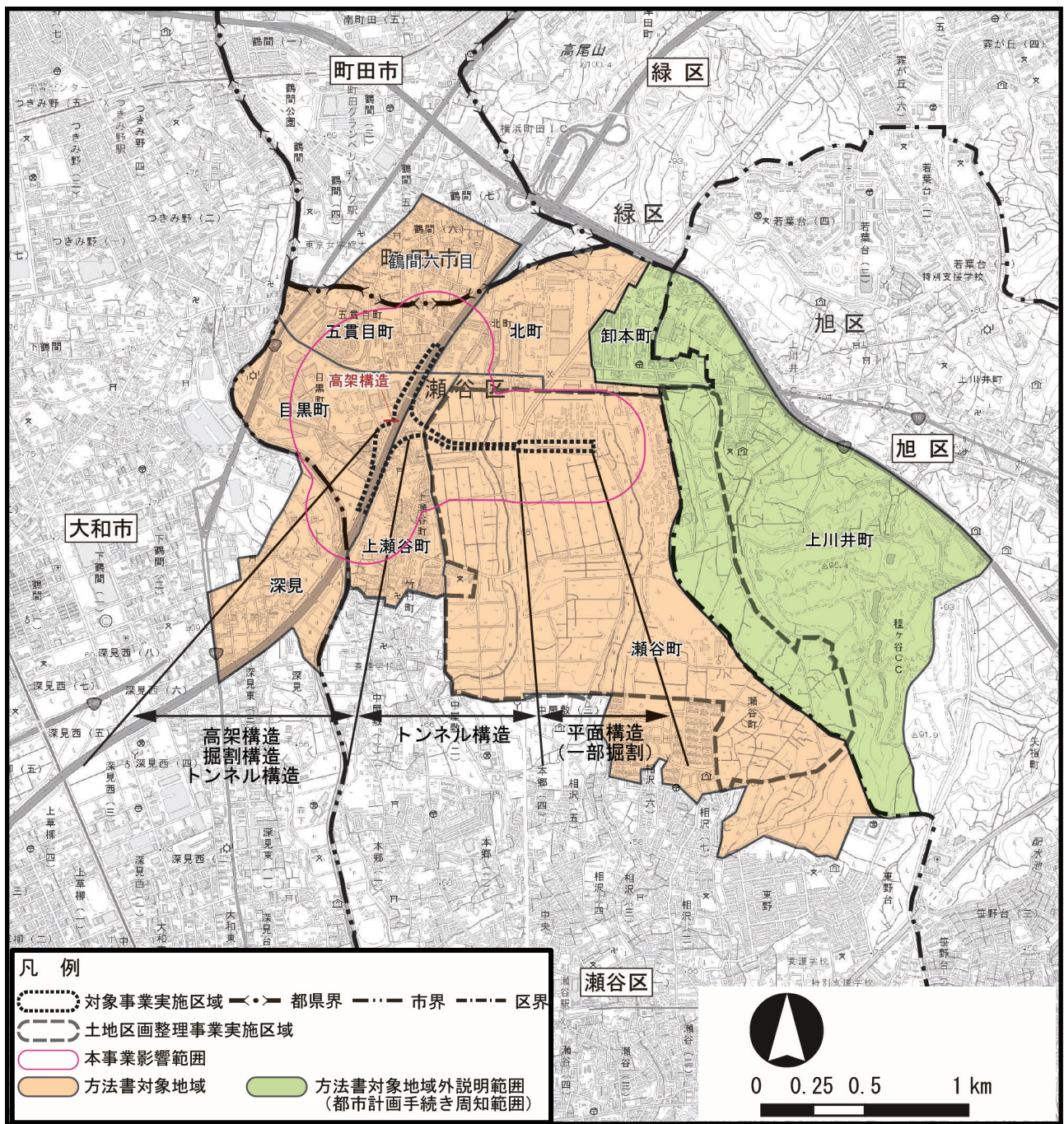


図 1-1 対象地域図

1.2 ホームページへの掲載

令和7年10月3日（金）に、横浜市（新たなインターチェンジ整備事業のページ）のホームページにおいて、方法書説明会の概要及び以下の資料を掲載しました。

- ・「旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業環境影響評価方法書の縦覧及び説明会開催のお知らせ」（別添資料1）

なお、令和7年10月17日（金）から以下の資料も掲載しました。

- ・「環境影響評価方法書説明資料（PDF）」（別添資料2）※説明会で使用したものと同様

新たなインターチェンジ整備事業のページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/jokyo/kukakuseiri/kamiseya/traffic/ic-seibi/jigyuu.html>

1.3 動画配信

令和7年10月17日（金）から11月17日（月）までインターネット上に方法書の概要に関する説明動画を配信しました。配信内容は説明会の内容と同様のものにしました。

環境影響評価方法書説明会動画

（旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業）

<https://www.youtube.com/watch?v=DtoedEaNo28>

2 説明会の開催状況、質疑、意見の概要及び事業者の説明

2.1 説明会の開催状況

説明会は、表 2-1 に示す日時で計 2 回開催し、方法書の概要を参加者に説明しました。

表 2-1 方法書に関する説明会の開催結果

回	開催日時	開場	参加人数
第 1 回	令和 7 年 10 月 18 日 (土) 14:30~16:00	瀬谷公会堂 (瀬谷区二ツ橋町 190 番地)	41 名
第 2 回	令和 7 年 10 月 22 日 (水) 18:30~20:00	旭公会堂 (旭区鶴ヶ峰 1-4-12)	30 名
合計			71 名

2.2 説明会における質疑、意見の概要及び事業者の説明

各開催日の質疑、意見の概要及び事業者の説明は、表 2-2～表 2-3 に示すとおりです。
整理に当たっては、発言順とし、項目を設けました。

表 2-2 (1) 説明会（第 1 回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
A	対象事業の内容	上下方向のオンランプとオフランプの工事内容や、どこが高架構造、トンネル構造などの構造情報を教えてください。	補足資料 1 を提示。A から D までの 4 つのランプがあります。A ランプは、東京方面に高速道路に乗るランプで、東名高速道路の下を通過して接続します。B ランプは、名古屋方面から料金所に降りるランプで、東名高速道路との交差部は橋梁で上越しします。C ランプは、名古屋方面に接続するランプで、現地盤を半地下にする区間や現地盤と同レベルの高さとなる構造があります。D ランプは、東京方面から降りるランプで、C ランプと同様に現地盤からは半地下になるような構造を計画しています。料金所は、環状 4 号線から東側に計画しており、4 つのランプを通った後は農業振興地区の地下を走行し、その先で環状 4 号線を越してから、地上に出る計画です。
	対象事業の内容	料金所へのアクセス方法をどのように考えているか教えてください。	補足資料 2 を提示。上川井瀬谷 1 号線からの乗り降りを想定しています。上川井瀬谷 1 号線から、北・南方面へのアクセスは、補足資料 2 における矢印で記載のとおりです。
B	施工計画	東名高速道路の側道が、インターチェンジができることにより、無くなると聞いています。マークスプリングスや五貫目町周辺から上瀬谷小学校までの通学路になっているが、工事中の対処の仕方などを教えてください。	補足資料 1 を提示。今回のインターチェンジの事業において、大きく現地の道路を改変するのは、補足資料 1 においてオレンジ色に着色した部分と、その内側です。こちらで把握している上瀬谷小学校への通学路については、市営団地付近で本図の D ランプの付近を通ると認識しています。工事の計画については、現時点ではご説明できるものはありませんが、道路の改変にあたっては、ご意見を踏まえて、通学路についても小学校とも調整して適切に安全が保たれるようにしてまいります。

表 2-2(2) 説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
C	環境影響要因	瀬谷に残された最後の里山の樹木が大量に伐採され则认为しています。地球温暖化防止は緊急の課題です。また、300 億円以上の予算が使われると聞きました。今までの既存の料金所（横浜町田 IC）を使った方が温室効果ガスの削減にもなると思いますが、どう考えていますか。	インターチェンジは、上瀬谷の立地性をいかに発揮するかという視点が重要と認識しています。将来、防災・公園地区に広域防災拠点を整備していこうと計画していますが、一刻も（早く）発災時に対処するためには、東名高速道路と直接つながっていることが重要と認識しています。 また将来の土地利用でそれなりの交通需要が見込まれますが、周辺への道路への影響も考えられるため、直接つながるインターチェンジを作ることは、重要であると考えています。
D	対象事業の内容	横浜町田 IC の入り口では、タンクローリーの転倒等、きついカーブを作ったことによる死亡事故等も発生しています。防災について、どのように考えているか教えてください。この計画は、神奈川県工業保安課や高圧ガス防災協議会等へ、情報を流しているのでしょうか。対応していない場合は、意見書を提出することや、横浜市の方と意見交換をするように伝えたいと考えています。 十分、安全に配慮してほしいため、話をさせてもらいました。	補足資料 1 を提示。あげていただいた団体とは情報共有はしておらず、主に神奈川県警や、高速道路会社と調整をしてきました。また、将来は横浜市道になるため、横浜市の道路関係の課と調整をしてきました。国の方で、新しく道路をつくる時に守るべき基準が定められているため、それに則って計画しています。タンクローリーも走行は可能ですが、一部区間がトンネルになっているため、それも含めて、今後、運用については神奈川県警や関係者と調整して進めていきます。
E	施工計画	トンネルが計画されている真ん中あたりが低く、右側は高く、左側は少し下がる地形となっているため、安全対策をしっかり考えてほしいと思います。地下には何が埋まっているか分からないため、これから工事を始める前に事故に十分気を付けてほしいと思います。地下水への汚染が出たという話も聞いていますので、ぜひよろしくをお願いします。事故のないように、お金をかけてください。	現在の地形ですが、現地確認をすると、川があり、その部分が掘られている状況です。今後、区画整理事業において、盛土や切土がされていきます。我々が工事に入るときには、平坦で土が均一になった状態になっています。ご意見を踏まえ、安全第一で進めていきたいと思います。万が一、不測のことがありましたら、法に則って、適切に対応していきます。
	その他	小学校の位置や、交差点の位置等の情報を書いた状態で、見やすい地図にしてほしいです。	ご意見として承りました。

表 2-2(3) 説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
F	環境影響要因	当然自動車から温室効果ガスが排出されると思いますが、「自動車の走行」のところに丸がついていません。これはどのように理解すればいいのでしょうか。	こちらは、国の道路環境影響評価の技術手法を参考に選定しています。自動車から排出される温室効果ガスは、道路事業者や国の関係団体の協力を得ながら削減していくこととなりますので、道路事業者だけでの削減は難しいです。また、インターチェンジができることにより、周辺の交通流の円滑化がされることから、「自動車の走行」については選定していません。
	環境影響要因	先ほどご説明のあったように、観光・賑わい地区に膨大な車両が押し寄せていると思います。それによる環境影響の悪化が懸念されると思いますが、その交通量はどのように予測されているのでしょうか。交通量がどれだけ適切に見込まれるかが、教えてください。	将来、まちづくりが成熟した時の交通量を用いて推計をします。上瀬谷地区については、「観光・賑わい」等の4つの地区がありますが、それらの需要を含めて広域からどういう影響があるのかを把握したうえで、ネットワークを構築し、推計して、環境影響評価に繋げていきます。
G	対象事業の内容	区画3号線について、車線数など、詳しく教えてください。	補足資料1を提示。道路の幅員は、真ん中に料金所があるため、一番広い箇所では約47mです。料金所の運用は、今後、高速道路会社と協議していきますが、横浜町田ICのように料金所が何ブースもできるような運用は想定しておりません。3号線の車線数は、片側1車線の計画ですが、料金所の東側のT字路については、右折と左折を1車線ずつ設けるため、4車線程度ある計画です。料金後の西側、環状4号線側は、片側1車線の計画です。
H	対象事業の内容	補足資料2について、防災公園の下の道路に矢印が記載されていて、これは、高速へのアクセスの案内板が出るとのことだと思います。ここは住宅地と団地があります。道路が広くなるとは聞いていますが、そこにアクセスの案内板が出ると、交通量が増えて騒音がひどくなるため、考え直してほしいです。	まだ具体的に、看板をどこにどのように設置するかという計画はありません。供用前頃に、現地に高速への案内が設置されることとなりますが、神奈川県警と協議して設置していきます。ご意見を踏まえ、その際に対応を考えます。 騒音の存在・供用後の調査地点図を提示。騒音については、道路9・道路8の地点において調査を行い、住宅地を考慮した影響を考えていきます。
	その他	家に工事の案内がポストされていますが、毎回地図が小さく、ぼやけており、よく分かりません。印刷時には注意してほしいです。	本事業ではまだ工事に着手していないため、土地区画区画整理事業の案内と思われます。担当部署に伝えます。

表 2-2(4) 説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
I	対象事業の内容	補足資料1のBランプの付近について、現時点で構いませんので、ランプの構造や工事の工法、騒音・振動問題の考えなどについて、お聞きしたい。	Bランプ（県道瀬谷柏尾との交差）付近では、東名高速道路は現地の地形よりも高いところを走っています。東名高速道路と交差するあたりが橋梁になりますが、Bランプもそこまでの区間は東名高速道路の本線と同じくらいの高さになります。高低差は5～10m程度です。コンクリートの擁壁によって、極力、改変範囲が少なくなるような計画を考えています。特殊な重機を使用することは現時点では考えていませんが、工事を発注して着手する際は、近隣の皆様に工事説明会を行います。工事説明会の中で、使用する重機や騒音・振動がどうか、通学路への影響等をご案内します。騒音等のご懸念もあると思いますが、今回の環境影響評価の中で適切に検討し、遮音壁等の対応は考えていきます。
C（再質問）	対象事業の内容	巨額の金額がかかると聞いていますが、横浜市の予算からでしょうか。それとも国の補助金が出るのでしょうか。具体的な説明をお願いします。	横浜市が事業として行っていますが、現在、同時に都市計画の手続きもしています。今後、順調に手続きが進んで認定された場合、国の補助金を充てられることを見込んでいます。事業の内容によって補助金の割合が変わってきますが、都市計画道路では半分程度が一般的です。また、こちらの事業では物流地区での事業を予定している企業も恩恵を受ける計画になるため、その事業者からのご負担の計画も出てきています。また、事業スキームに応じて高速道路会社が負担するところもあります。今後、事業を進めていく中で精査していきます。
J	対象事業の内容	テーマパークの来場者向けの交通も、今回のインターチェンジを利用することもあると思います。当然、テーマパークの事業者も営業上のメリットがあると思います。物流地区の事業者の負担の話は出ましたが、「観光・賑わい」のテーマパークの事業者の負担はどうなのでしょう。	物流事業者に負担を求める理由として大きいものは、物流事業者の方で高速道路の自動運転の事業を検討していることです。高速道路と直結したインターチェンジの事業がないと、事業が成り立たないため、負担を求めています。他にも関連する事業者等が使われるとは思いますが、横浜市として公共性のある事業として整備をしていくものであるため、その他の方々には負担を求めるものではないと考えています。

表 2-2(5) 説明会（第1回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
D (再質問)	施工計画	方法書対象地域の中で、鶴間六丁目の部分に色が付いていますが、その地域は工事用車両が入ることを想定しているのでしょうか。 また、横浜市民にとっては重要な、水道の配管が通っている箇所もあります。現状では、重量制限があり、一般的な車は入れないと思いますが、入るということでしょうか。	工事計画については、未定の部分がありますが、今回のアセスの中で想定している工事用車両の走行ルートは、説明資料の 43 枚目の記載の通りです。環状4号線、広域的な運行については、八王子街道、幹線道路を使つてのルートを想定しており、ご指摘の生活道路等を工事用車両が走行することは無いと考えています。
	施工計画	鶴間小学校の通学路で交通安全の活動をしています。工事用車両が入る可能性があるのであれば、交通安全に関して校長先生と話し合いをしてほしいです。	事業者や対象事業実施区域は横浜市になりますが、影響範囲としては大和町と町田市も入ります。影響については、しっかり把握していきたいと考えています。

表 2-3(1) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
A	環境影響要因	東名高速道路の側道が工事で変更になると前回の説明会では聞きましたが、交通や騒音の影響や調査はどのようになっているのでしょうか。 (補足質問) 主要道路を中心に考えており、東名高速道路の側道のような生活道路は考慮しないのでしょうか。	まず地域交通に係る交通混雑については、地域住民の方々の日常の交通経路を対象としており、幹線交通については交通を集中させ、地域の交通を緩和するような位置づけで認識しています。東名高速道路の交通混雑については、道路管理者において交通量観測を行っているため、そのようなデータを収集し、今後検討を進めてまいります。 騒音についても、東名高速道路の交通量を踏まえながら、適宜対応していきます。 (補足質問への回答) 説明資料 67 枚目を提示。新たなインターチェンジができることにより影響があると考えられる周辺の交差点を対象に調査し、評価します。
B	対象事業の内容	新たなインターチェンジは、説明資料を確認すると、海軍道路には直結しないように思います。このインターチェンジを一般的に利用する場合、旭区及び瀬谷区の住民はどこから入ればいいのかのでしょうか。地図で示してください。 (補足質問) 提示図面は、方法書に入っているのでしょうか。どちらで閲覧ができますか。	補足資料 1 を提示。 料金所の位置は、環状 4 号線より東側です。 補足資料 2 を提示。この通り道路標識が案内されるというものではありませんが、一般的と考えられる経路を示しています。八王子街道から目黒交番前を経由するルート、国道 16 号から上川井瀬谷 1 号線を経由するルート、南側の環状 4 号線から消防出張所の交差点を経由するルートなどを想定しています。 (補足質問への回答) こちらの資料は、方法書の中にはありません。先日、対象事業実施区域の近隣にお住まいの皆様向けに計画の概要を説明した際に使用したスライドです。横浜市 HP (https://www.city.yokohama.lg.jp/ku-rashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/jokyo/kukakuseiri/kamiseya/traffic/ic-seibi.jigyuu.html) より、「事業者説明会(令和 7 年 9 月 12 日、13 日)」のスライドをご確認ください。 ※補足資料 2 については上記の中にはありません。

表 2-3(2) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
B	対象事業の内容	予算はどれくらいですか。 市道と聞いていますが、物流地区に直結するため、物流地区の事業者の予算負担はあるのでしょうか。負担割合を教えてください。	事業の概算費用は約 360 億円を見込んでいます。その負担割合はまだ決まっておりません。今後、関係者との協議によって決めていきますが、具体的な関係者としては4者を予定しています。環境アセスメントとは別に、並行して都市計画の手続きを進めていく予定があり、その都市計画道路に決定されると国の補助金が見込まれます。また、国の方で示されている、高速道路会社との事業スキームもあります。このインターチェンジ事業の特徴として、東名高速道路と物流施設を直結するため、物流事業者の方にも負担を求めていくという考えがあります。横浜市、国、高速道路会社、物流事業者の4者で、今後、費用を協議します。
C	道路混雑	説明資料の 67 枚目についてです。調査地点が、主に北方面となっており、南方面が 3 地点となっています。今月 7 日に令和 6 年度決算特別委員会で議員が GREEN×EXPO 2027 の周辺道路の混雑について質問しており、その際に局長が「複数の交差点の改良に着手して、交通容量の拡大に取り組んでいる」と回答していました。花博の際には周辺道路が混雑すると思いますが、そちらについてと今後のインターチェンジの環境影響評価の関り、どのように連携していくかを教えてください。	GREEN×EXPO 2027 会場へのアクセスとしては、推計上、概ね北方向から来場すると想定しております。交差点 4 は 2 年ほど前に保土ヶ谷バイパスのオフランプを拡幅しており、交差点 3 は立体化を進めています。また、土木事務所で改良を進めていく交差点もあるかと思います。今回事業者にて示しているものは、GREEN×EXPO 2027 が終わり、街づくりが落ち着いた状態での交通状況の影響を考えています。その時には、幹線道路も概ね整備が完了しているという視点で、主要な幹線道路の交差点に着目しています。先ほどお話しいただいた交差点 9・10・11 が、そのような観点から選定しています。

表 2-3(3) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
B (再質問)	環境影響要因	物流地区が開業した時の排ガスの予測はアセスで評価するのでしょうか。1日どれくらいの車が来て、どれくらいの排ガスが出るかということはないのでしょうか。予測項目にはないと思いますが、方法書に載せるのか教えてください。 (補足質問) これから街、テーマパーク、物流地区等が全てできた後の交通量が予測に含まれるのでしょうか。	存在・供用時の環境影響評価のため、物流地区に特化したものではなく、上瀬谷の街づくり（4つのゾーンでの土地利用等の計画）を含めた交通を加味します。それを踏まえ、今後予測を行っていきます。そのため、物流地区を考慮した上での数字と理解いただきたい。 (補足質問への回答) 物流だけでなく、他のまちづくり等も踏まえた交通量と理解いただきたい。
	土壌汚染	10月17日の横浜市環境影響評価審査会で、土壌汚染の調査が今までされているのが地上から1m～2mまでであり、今回10mくらい掘削すると聞きました。調査をした方がいいと審査会で委員から意見を受けていましたが、調査するかを教えてください。 (補足意見) 旧米軍施設があったあたりのため、PFASの調査や10mまでの土壌汚染については追加で実施した方がいいと考えます。	審査会の中では、特段土壌汚染についてはこの事業の中での環境影響評価項目としては考えていませんと話しました。理由としては、区画整理事業の方で基準を超過している部分も含めて現場対応していくためですが、委員からは掘削が10m以上あるのではないかとのご見解を頂きました。 今後の審査会の中で、事業者の考えを整理します。
C (再質問)	道路混雑	補足資料2で示されているエリア以外の道路については、整備が進んでいないと思いますが、どのような計画を考えているのでしょうか。 今回の事業計画で周辺の生活道路を整備しないのであれば、このインターチェンジ周辺は便利になりますが、そこに行くための生活道路に負担がかかるのではないのでしょうか。周辺道路の整備にもお金をかけていただきたい。 また、これに合わせて連携する都市計画や、既に策定済みの都市計画については並行して進めていくべきではないのでしょうか。	補足資料3において、上瀬谷地区の周りで現在行われている事業の箇所を、赤色で示しています。 横浜市自体も都市計画道路の整備率が他の都市に比べて低い中で、さらに瀬谷区と旭区は低い状況になっています。そのため、地域として幹線道路を整備しなくてはならないというのは、市の課題としても認識しています。 一方で、横浜市の資金だけでは中々現場施工ができないという課題もあり、具体的には国の補助をいただきながら、少しずつ周辺の道路も進めているところです。状況をご理解いただきたい。

表 2-3(4) 説明会（第2回）における質疑、意見の概要及び事業者の説明

質問者	項目	説明会における質疑、意見の概要	事業者の説明
B (再質問)	道路混雑	説明資料の9枚目について、目的の中に「物流機能の強化」と書かれており、予算も4者で分けるとのことですが、土地区画整理事業の時にはインターチェンジの話はありませんでした。物流事業者のために作ってあげると理解しました。自動車交通が分散すると書かれていますが、交通が集中することはあっても、分散することはないと思います。現在も混雑している中、さらに交通量が増えて道路混雑することが目に見えていると思います。市民のことを考えると、インターチェンジは作らない方がいいと思いますが、なぜ分散すると考えるのか教えてください。	物流事業者の使用に加え、上瀬谷地区では、広域防災拠点を整備したり、物流地区以外にも「観光・賑わい地区」や公園など、様々な用途があり、その土地利用への道路としても考えています。上瀬谷地区だけでなく、周辺の事業者や住民の方が使うインターチェンジにもなります。 将来的には道路拡幅もするため、現状とは異なることとなりますが、現在、八王子街道等の周辺道路が混雑していることがご懸念かと思います。街に集まる車の特性は、区内の方や、長距離の方もいる中で配分を考えた際に、東名高速道路から直接、上瀬谷にアクセスできることにより、周辺道路の影響が軽減できると考えているため、分散すると記載しています。



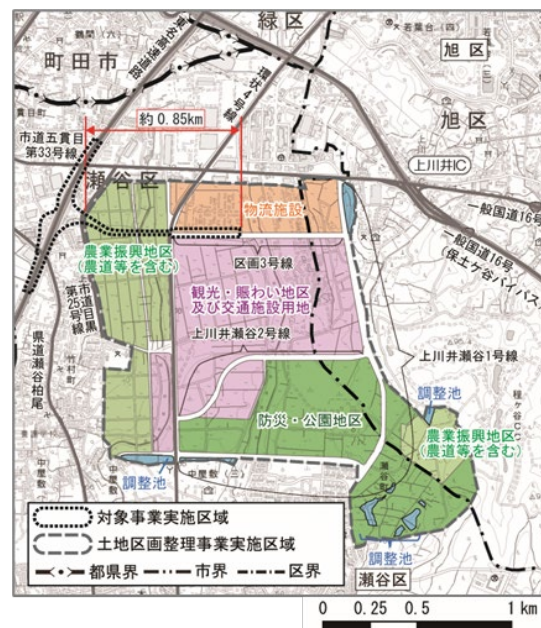
旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ 整備事業 環境影響評価方法書の縦覧及び説明会開催のお知らせ

「旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業」（以下、「本事業」とします。）について、横浜市環境影響評価条例に基づく「環境影響評価方法書」（以下、「方法書」とします。）を作成しましたので、その概要と縦覧及び説明会の開催についてお知らせします。

1 都市計画対象事業の概要

本事業は、上瀬谷地区内の「防災・公園地区」で整備を予定している広域防災拠点の機能を最大限に発揮するとともに、日常の交通利便性の向上、物流機能の強化など市内経済の活性化を目指し、上瀬谷地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジを整備しようとするものです。

都市計画決定権者の名称並びに当該対象事業を実施しようとする者の氏名及び住所	【都市計画決定権者】 横浜市 【都市計画対象事業を実施しようとする者】 名称横浜市 代表者の氏名 横浜市長 山中 竹春 主たる事務所の所在地 横浜市中区本町6丁目50番地の10
都市計画対象事業の名称	旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業
都市計画対象事業の種類、規模	道路の建設（自動車専用道路の新設）： （第1分類事業） 延長：約0.85km（ランプ区間含め約3.7km） 構造形式：地表式、地下式 車線数：片側1～2車線
対象事業実施区域	横浜市瀬谷区上瀬谷町、五貫目町、瀬谷町、目黒町の各一部 起終点：横浜市瀬谷区瀬谷町



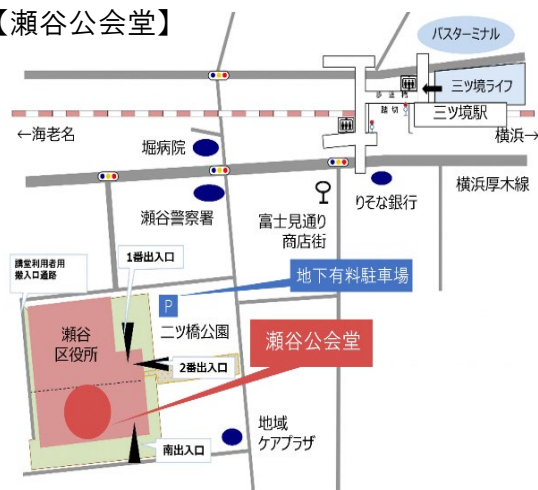
2 説明会の概要

●会場及び日程

日 時	会 場
10月18日（土） 14時30分～16時00分予定（14時00分開場）	瀬谷公会堂 横浜市瀬谷区二ツ橋町190
10月22日（水） 18時30分～20時00分予定（18時00分開場）	旭公会堂 横浜市旭区鶴ヶ峰1-4-12

- ・各回とも内容は同じです。説明後、質疑応答を行います。
- ・申し込みは不要です。当日、会場へお越しください。
- ・瀬谷公会堂、旭公会堂は区役所駐車場をご利用いただけますが、台数に限りがありますので、公共交通機関のご利用にご協力をお願いします。なお、**駐車料金は有料**となりますのでご注意ください。

【瀬谷公会堂】

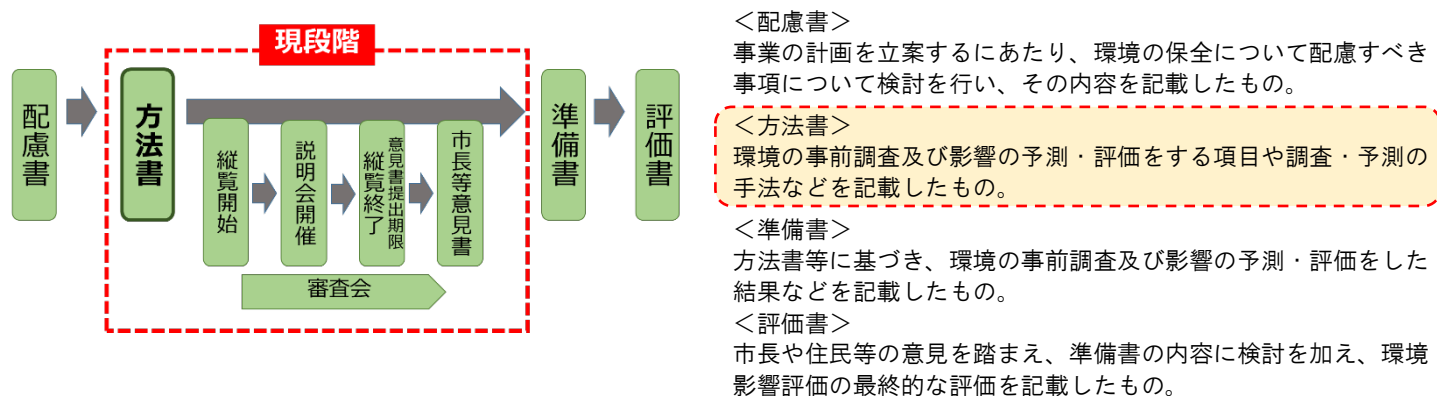


【旭公会堂】



3 環境影響評価手続きの流れ

環境影響評価（環境アセスメント）制度は、事業が環境に及ぼす影響について事前に調査・予測・評価を行い、その結果を公表し、市民や市長等から意見を聴くなどの手続を通じて、適切な環境保全対策等を検討し、事業計画に反映させる制度です。手続の流れは次のとおりで、現在は方法書の段階となります。



4 方法書の縦覧及び意見書の提出について

本事業の方法書について、下記のとおり縦覧を行います。方法書はどなたでもご覧になれます。

また、方法書の内容に関して環境の保全の見地からご意見のある方は、以下に示す期間中に意見書を提出することができます。

あわせて、一部の図書館において方法書の閲覧ができます。詳細は、横浜市ホームページ（みどり環境局環境影響評価課）をご覧ください。

■方法書の縦覧について

期間	令和7年10月3日(金)から令和7年11月17日(月)まで ※土・日・祝日を除く
場所	① 横浜市みどり環境局環境影響評価課（横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎27階） ② 横浜市瀬谷区役所区政推進課広報相談係（横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地） ③ 大和市役所 環境共生部環境・公害対策課（大和市下鶴間一丁目1番1号） ④ 町田市役所 環境資源部環境共生課、総務部法務課（東京都町田市森野二丁目2番22号）、南市民センター（東京都町田市金森四丁目5番6号）
時間	①8時45分～17時15分 ②8時45分～17時00分 ③、④は8時30分～17時00分

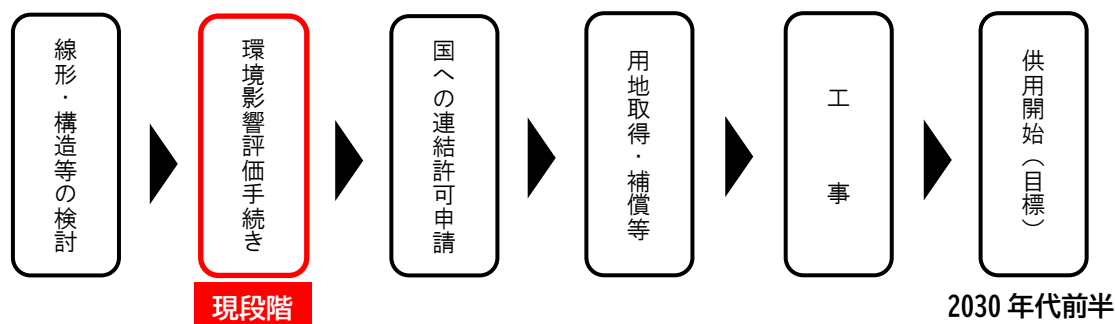
■意見書の提出について

期間	令和7年10月3日(金)から令和7年11月17日(月)まで ※土・日・祝日を除く
提出方法	A または B の方法で提出してください。 A：意見書用紙に記入して、以下の提出先へ持参または郵送（当日消印有効）にて提出 ※縦覧場所窓口で意見書用紙を配布しております。町田市役所は環境共生課のみ 提出先：横浜市みどり環境局環境影響評価課（横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎27階） B：横浜市ホームページ（みどり環境局環境影響評価課）から電子申請で提出 横浜市 環境アセスメント 検索 または、右のQRコードより、ホームページにアクセスください。



5 今後のスケジュール

引き続き、環境影響評価手続きを進めていきます。その後、東名高速道路へ新たな道路を接続するための連結許可手続を進めていき、国からの連結許可が取れ次第、用地取得・補償等の手続きや工事に着手する予定です。2030年代前半の供用開始を目標としています。



6 環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定

事業の内容、周辺地域の特性等から判断して、「横浜市環境影響評価技術指針」の「環境影響評価項目」を踏まえ、環境への影響を予測・評価する項目を16項目選定しました。

選定した項目については、現地調査や資料収集により現況を把握した上で事業による環境への影響を予測・評価し、より適切な環境への配慮を行います。

【凡例】 ○：選定した項目 —：選定しない項目
※本事業の事業特性を考慮し、追加した細目

■環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

環境の保全 及び創造に 向けた 基本的な考え方			区分		工事中			存在・供用時		
			環境影響要因		建設機械の稼働	工事用車両の走行	工ル切土工等、トンネル工事又は既存のネ 作物の除去	在は道路掘割（平面構造）の造存又	存道路（高架構造）の	造道路（トンネル構 造）の存在
気候変動への対策	温室効果ガス	温室効果ガス	○	○	-	○	○	○	-	
身近な自然環境の 保全・再生・創造	生物・生態系	生態系	-	-	○	○	○	-	-	
		動物	-	-	○	○	○	-	-	
		植物	-	-	○	○	○	-	-	
	緑地	緑地	-	-	○	○	○	-	-	
	水循環	地下水位及び湧水の流量	-	-	○	○	-	○	-	
	廃棄物・建設発生土	産業廃棄物	-	-	○	-	-	-	-	
		建設発生土	-	-	○	-	-	-	-	
	大気質	大気汚染	○	○	-	-	-	-	○	
	騒音	騒音	○	○	-	-	-	-	○	
	振動	振動	○	○	-	-	-	-	○	
	地盤	地盤沈下	-	-	○	○	-	○	-	
	低周波音	低周波音	-	-	-	-	-	-	○	
	日影	日照阻害	-	-	-	-	○	-	-	
	安全	地下埋設物※	-	-	○	-	-	-	-	
快適な地域環境の 確保	地域交通	交通混雑	-	○	-	-	-	-	○	
		歩行者等の安全	-	○	-	-	-	-	○	
	景観	景観	-	-	-	○	○	-	-	
	触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	-	○	○	○	-	-	○	
	文化財等	文化財等	-	-	○	-	-	-	-	

7 お問い合わせ先

＜方法書、説明会及び事業計画の内容について＞

横浜市 脱炭素・GREEN×EXPO 推進局 上瀬谷交通整備部 上瀬谷交通整備課
TEL：045-671-4607 FAX：045-550-4106

＜環境影響評価制度について＞

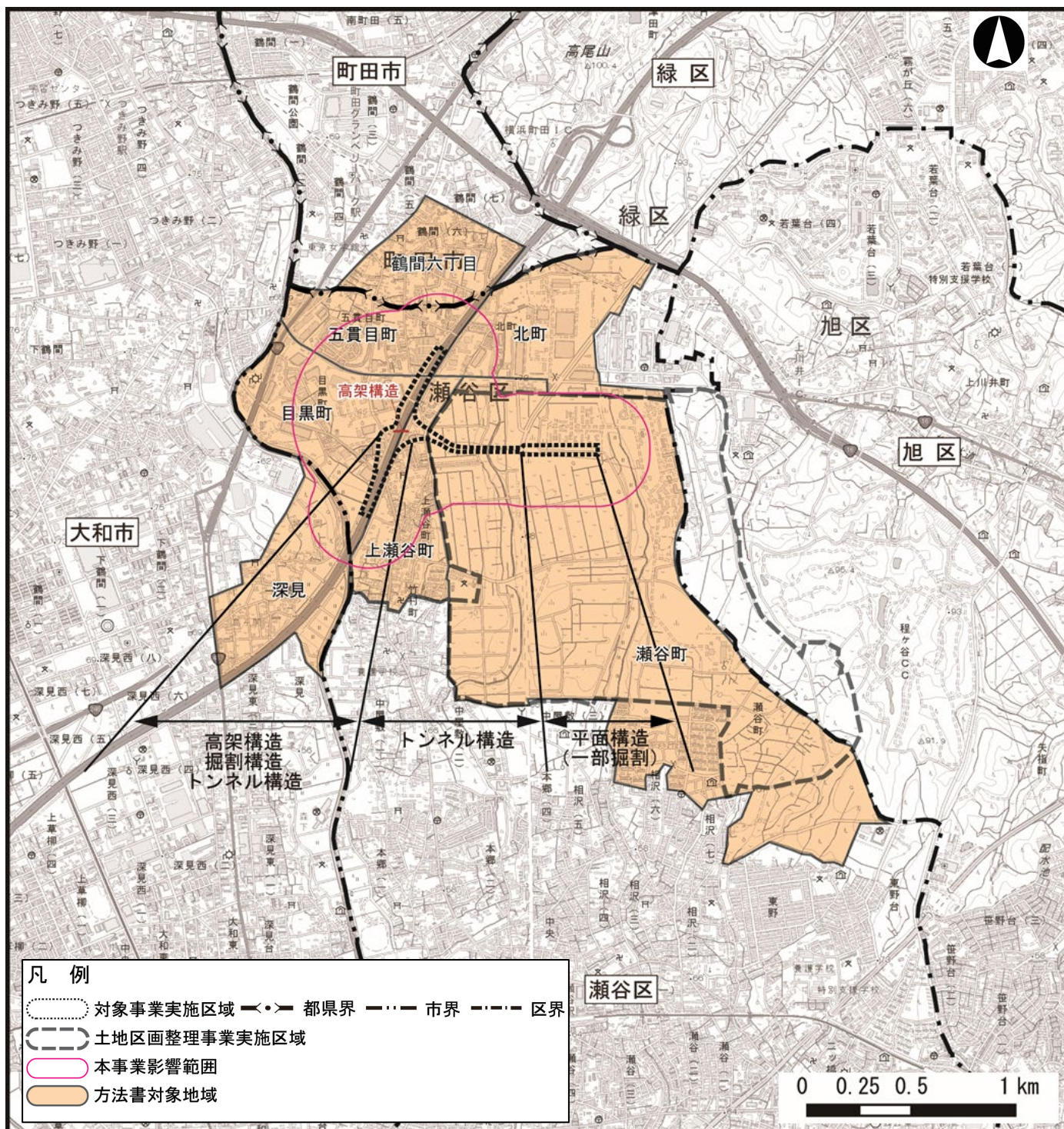
横浜市 みどり環境局 環境保全部 環境影響評価課
TEL：045-671-2495 FAX：045-663-7831

＜都市計画手続について＞

横浜市 建築局 企画部 都市計画課
TEL：045-671-2657 FAX：045-550-4913

8 方法書対象地域

方法書対象地域（方法書の内容について周知を図る必要がある地域）は、環境影響を受けるおそれがある範囲を踏まえて、次のとおり設定しました。



環境影響評価項目の影響等を考慮し、環境影響を受けるおそれがある範囲として対象事業実施区域から振動、低周波音が100m、地下水が150m、大気質・騒音が200m、動物・植物・生態系が250m、触れ合い活動の場が高架構造から500m圏にかかる町丁の全域及び一部地域としました。

- 【瀬谷区】上瀬谷町、北町、五貫目町、瀬谷町、目黒町
- 【大和市】深見（一部地域）
- 【町田市】鶴間六丁目

※上記方法書対象地域に加えて、今後の都市計画手続を踏まえて下記地域にも周知を行います。

- 【瀬谷区】卸本町
- 【旭区】上川井町（一部地域）

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速
道路を直結する新たなインター
チェンジ整備事業

環境影響評価方法書
説明会

令和7年10月



環境影響評価とは

環境影響評価（環境アセスメント）制度

事業が環境に及ぼす影響について

- ・ 事前に調査、予測、評価
- ・ その結果を公表
- ・ 市民等から意見を聴くなどの手続きを実施

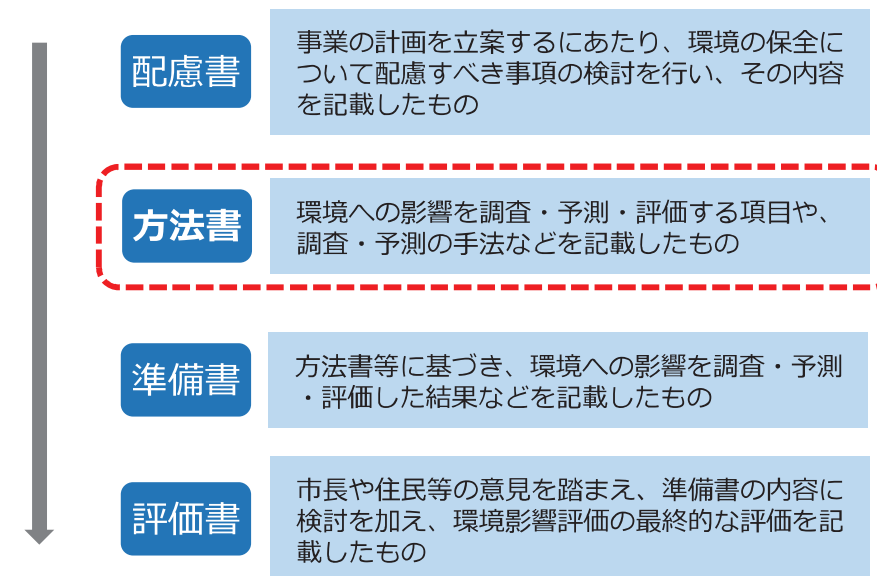
適切な環境保全対策等を検討し、
事業計画に反映させる制度

2 環境影響評価方法書の説明

本日の説明内容

- 1.環境影響評価について
- 2.環境影響評価方法書の説明
- 3.縦覧及び意見書の提出について

それぞれの図書の内容について



都市計画対象事業の概要

方法書p.2-1~2-3

都市計画決定権者の名称並びに当該第1分類事業を実施しようとする者の氏名及び住所
【都市計画決定権者】 横浜市
【第1分類事業を実施しようとする者】
名称 横浜市
代表者の氏名 横浜市長 山中 竹春
主たる事務所の所在地
横浜市中区本町6丁目50番地の10
都市計画対象事業の名称
旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業
都市計画対象事業の種類、規模
道路の建設（自動車専用道路の新設）
（第1分類事業）
延長：約0.85km（ランプ区間含め約3.7km）
構造形式：地表式、地下式
車線数：片側1～2車線
対象事業実施区域
横浜市瀬谷区上瀬谷町、五寶目町、瀬谷町 目黒町の各一部



注：方法書で示す土地区画整理事業
実施区域内の地区区分は6頁で説明

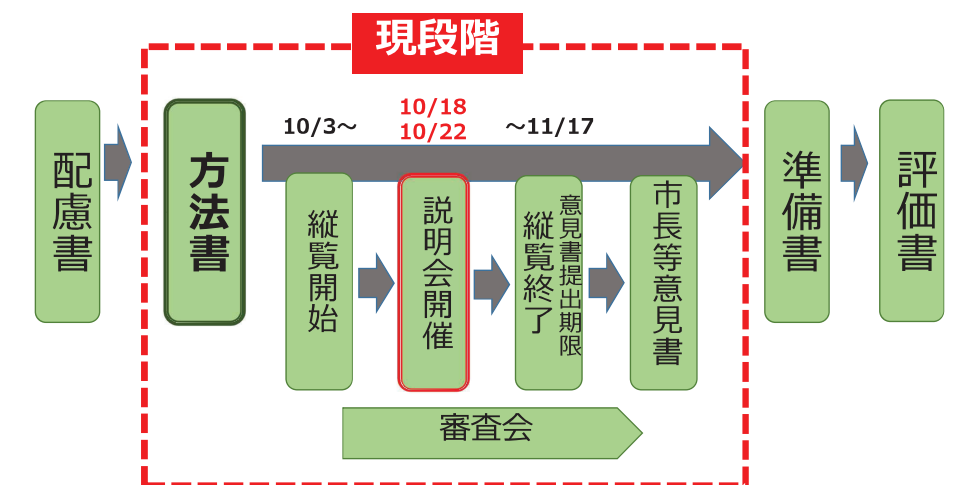
対象事業実施区域
起点：横浜市瀬谷区瀬谷町
終点：横浜市瀬谷区瀬谷町

〈凡例〉

 対象事業実施区域
 都県界
 市界
 区界

1 環境影響評価について

環境影響評価の手續



対象事業の目的及び必要性

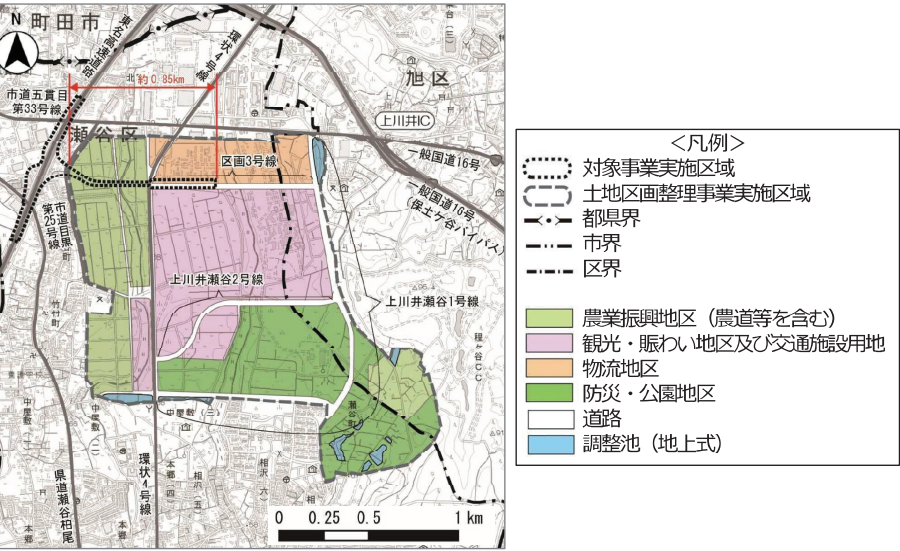
方法書p.2-4

■ 目的

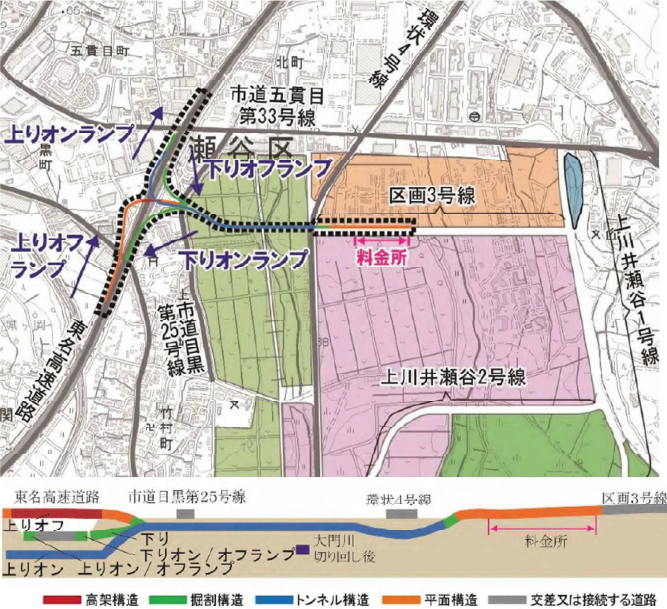
上瀬谷地区内の「防災・公園地区」で整備を予定している広域防災拠点の機能を最大限に発揮するとともに、日常の交通利便性の向上、物流機能の強化など市内経済の活性化を目指す。

■ 必要性

- ・救急・救命活動や緊急物資輸送の大動脈となる東名高速道路から直接アクセスできる新たなインターチェンジを整備し、本市全体の防災力の強化
- ・高速道路へのアクセス時間が短縮し、広域アクセス性が向上
- ・自動車交通が分散し、周辺交通環境の改善
- ・新たな活性化拠点の形成を促進し、市内経済の活性化



10



11

区分	環境影響要因	抽出の理由
工事中	建設機械の稼働	・道路の建設に伴い、建設機械が対象事業実施区域で稼働します。
	工事用車両の走行	・資機材の運搬や廃棄物等の搬出を行う車両が、周辺道路を運行します。
	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	・工事の実施に伴い、地表を改变します。 ・トンネル工事に伴い、地下を改变します。 ・工事の実施に伴い、既存の工作物を解体・撤去します。
存在・供用時	道路（平面構造又は掘割構造）の存在	・道路（平面構造又は掘割構造）が、地上部に出現します。
	道路（高架構造）の存在	・道路（高架構造）が、地上部に出現します。
	道路（トンネル構造）の存在	・道路（トンネル構造）が、地下部に出現します。
	自動車の走行	・施設の供用に伴い、新たに自動車が地上もしくは地下を走行します。

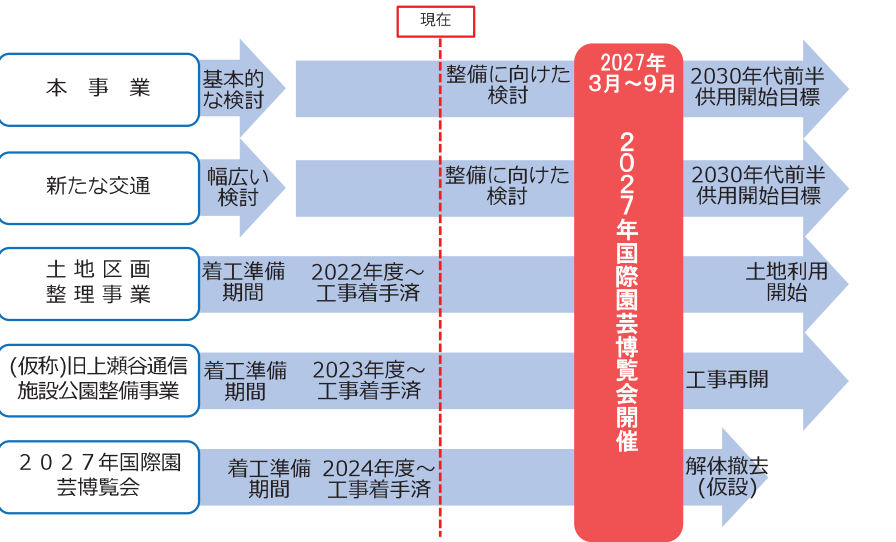
注：評価を行う現況は、土地区画整理事業の着手後、工事中の時点とし、本事業に関する方法市長意見書を受理した時点の状況とします。

14

存在・供用時（1）		環境影響要因			
環境影響評価項目	細目	道路の存在			自動車の走行
		平面又は掘割構造	高架構造	トンネル構造	
温室効果ガス		○	○	○	
生物・生態系	生態系／動物／植物	○	○		
緑地		○	○		
水循環	地下水位	○		○	
大気質	大気汚染				○
騒音					○
振動					○
地盤	地盤沈下	○		○	

※存在・供用時を対象として選定した項目のみを掲載

16



注1：関連事業の今後のスケジュールは、各事業の環境影響評価関連図書をもとに整理したものです。
注2：「新たな交通」の事業は、横浜市環境影響評価条例の対象外の事業です。

12

工事中（1）		環境影響要因		
環境影響評価項目	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去
温室効果ガス		○	○	
生物・生態系	生態系／動物／植物			○
緑地				○
水循環	地下水位			○
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物／建設発生土			○
大気質	大気汚染	○	○	
騒音		○	○	
振動		○	○	
地盤	地盤沈下			○

※工事中を対象として選定した項目のみを掲載

15

工事中（2）		環境影響要因		
環境影響評価項目	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去
安全	地下埋設物 ^注			○
地域交通	交通混雑／歩行者等の安全		○	
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場		○	○
文化財等				○

注：本事業の事業特性を考慮し、追加した細目

※工事中を対象として選定した項目のみを掲載

16

存在・供用時（2）		環境影響要因			
環境影響評価項目	細目	道路の存在			自動車の走行
		平面又は掘割構造	高架構造	トンネル構造	
低周波音					○
日影	日照阻害		○		
地域交通	交通混雑／歩行者等の安全				○
景観		○	○		
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	○			○

※存在・供用時を対象として選定した項目のみを掲載

18

■ 工事中及び供用時ともに選定しなかった環境影響評価項目

環境影響評価項目	
	細目
水質・底質	公共用水域の水質
	地下水の水質
	公共用水域の底質
土壌	土壌汚染
悪臭	悪臭
電波障害	テレビ電波障害
風環境	局地的な風向・風速

19

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴うエネルギーの使用量及び温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	施工計画の内容を勘案し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき、エネルギーの使用量、温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度を定量的に算定

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴うエネルギーの使用量及び温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 供用を開始し、事業活動が定常の状態になる時期	事業計画の内容を勘案し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき、エネルギーの使用量、温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度を定量的に算定

22

調査手法		
調査項目 ^注	調査方法	
動物の状況 ・動物相 ・注目すべき動物種及び動物群集の状況 ・生息環境の特性 ・動物の生息環境からみた地域環境特性	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査
	現地	陸生動物 動物相調査 a.哺乳類 ・任意観察法、フィールドサイン法、トラップ法、無人撮影法及び夜間調査（コウモリ類） ・4季（春季、夏季、秋季、冬季） ※夜間は2季（春季、夏季） b.鳥類 ・任意観察法、ラインセンサス法、定点観察法及び夜間調査（フクロウ類、夜行性鳥類） ・5季（春季、初夏季、夏季、秋季、冬季） ※夜間調査は繁殖期（初夏季、冬季） ※定点観測法（猛禽類の繁殖の兆候が確認された場合）は2営巣期 c.両生類及び爬虫類 ・任意観察法及び任意採取法 ・4季（早春季、春季、夏季、秋季）
注：主な調査項目を記載		

25

調査、予測及び評価の手法

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
生態系の状況 ・生態系の機能及び構造 ・食物連鎖の状況 ・注目すべき生態系及びその理由	資料 現地	動物の状況及び植物の状況の調査結果及び現地踏査により、生態系の状況を把握

注：主な調査項目を記載

20

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
温室効果ガスに係る原単位の把握	資料	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により、予測式及び原単位を整理
地域内のエネルギー資源の状況	資料	既存の統計資料や、横浜市のエネルギー関連施策等の収集整理により調査
排出削減対策	資料	同種又は類似の事業を対象に、温室効果ガスの排出等を削減するための対策の内容及びその効果等を整理

注：主な調査項目を記載

21

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した生態系の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた動物及び植物の生育・生息環境が安定した時点	調査で把握した生態系の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

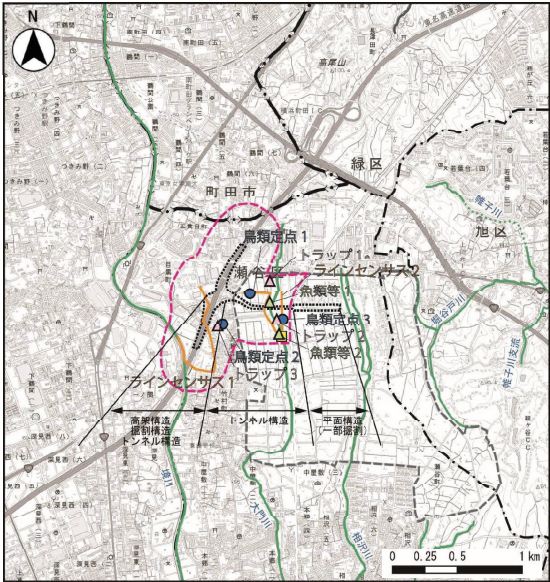
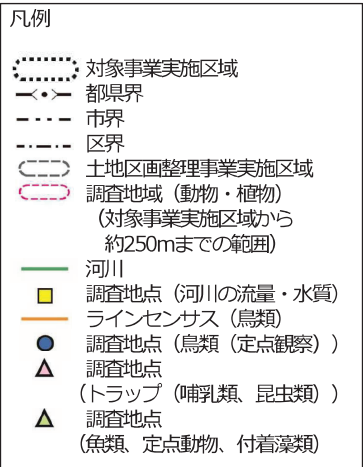
24

調査手法		
調査項目 ^注	調査方法	
水質の状況	現地	大門川のSS（浮遊性物質）、pH（水素イオン濃度）を調査 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）
水循環の状況	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間 河川の流量の調査 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）

注：主な調査項目を記載

27

調査地域



調査手法

調査項目注		調査方法
水質の状況	現地	大門川のSS（浮遊性物質）、pH（水素イオン濃度）を調査 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）
	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
水循環の状況	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間 河川の流量の調査 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）

注：主な調査項目を記載

調査手法

調査項目注		調査方法
緑地の状況	資料	植生図等の既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	植生図等の既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査により調査

注：主な調査項目を記載

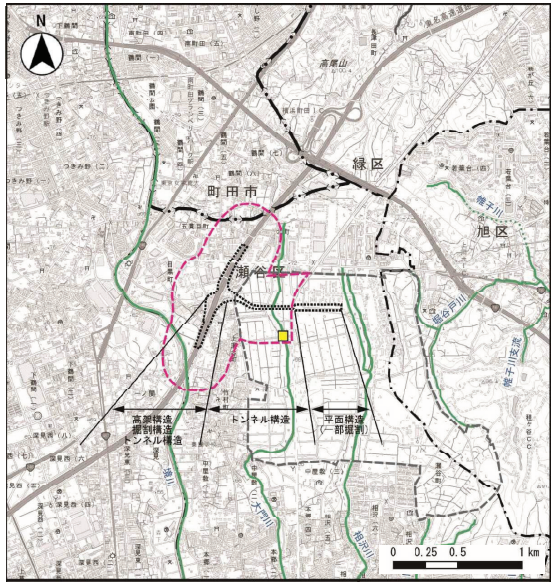
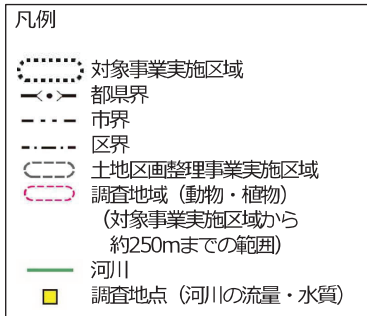
予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況及び生息環境と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

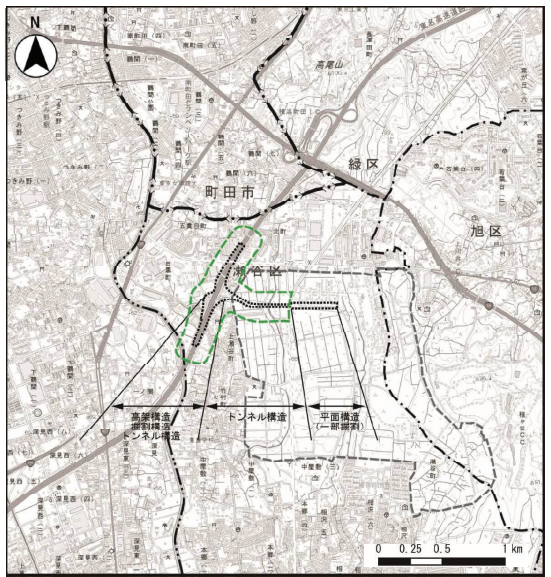
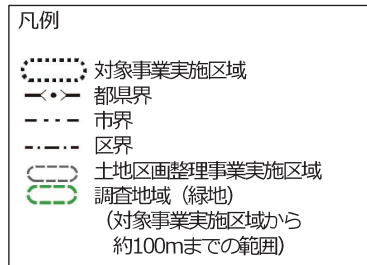
予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた動物の生息環境が安定した時点	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況及び生息環境と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

調査地域



調査地域



調査手法

調査項目注		調査方法
植物の状況	資料	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査
	現地	陸生植物 a.植物相調査 ・任意観察法及び任意採集法（維管束植物、蘚苔類） ・4季（早春季、春季、夏季、秋季） b.植生調査 ・コドラート法 ・1季（夏季） c.大径木調査 ・現地確認 ・通年 水生植物 a.付着藻類調査 ・任意観察法及び定量採取法 ・4季（春季、夏季、秋季、冬季）

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相及び植生の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた植物の生育環境が安定した時点	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相及び植生の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う緑地の状況及びその機能の程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した緑地の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う緑地の状況及びその機能の程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた時点	調査で把握した緑地の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地下水の状況 ・地下水の水位及び流動 ・帯水層の状況	資料	既存資料の収集・整理
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間

注：主な調査項目を記載

廃棄物・建設発生土

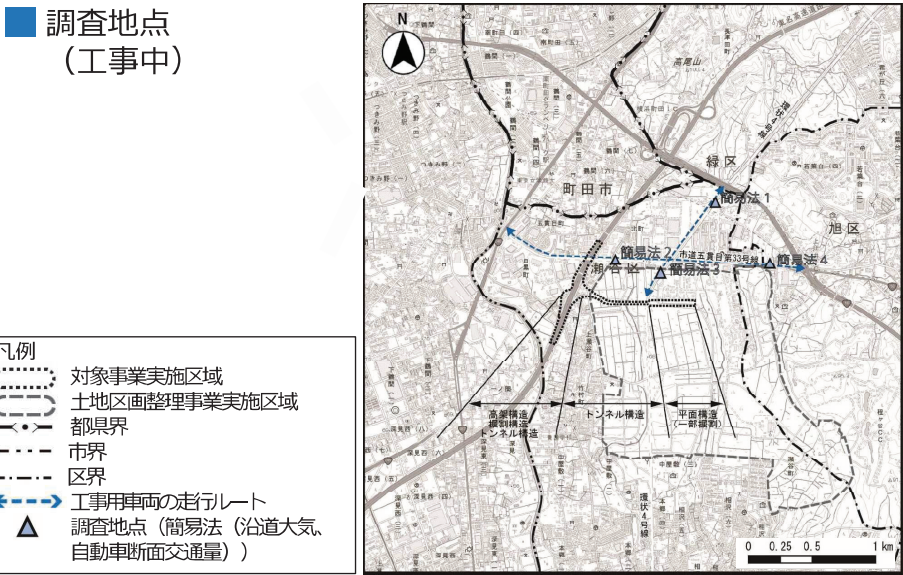
調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
廃棄物及び建設発生土の処理・処分の状況 ・種類ごとの発生量 ・工事間利用の状況 ・廃棄物の処理状況	資料	横浜市における廃棄物及び建設発生土の処理状況等を、既存資料の収集・整理により把握

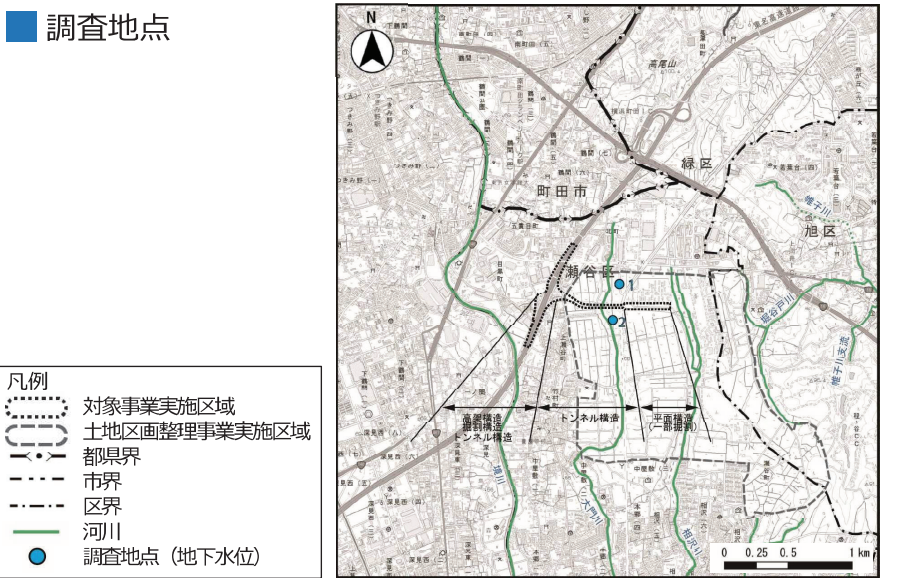
注：主な調査項目を記載

大気質

調査地点
(工事中)



調査地点



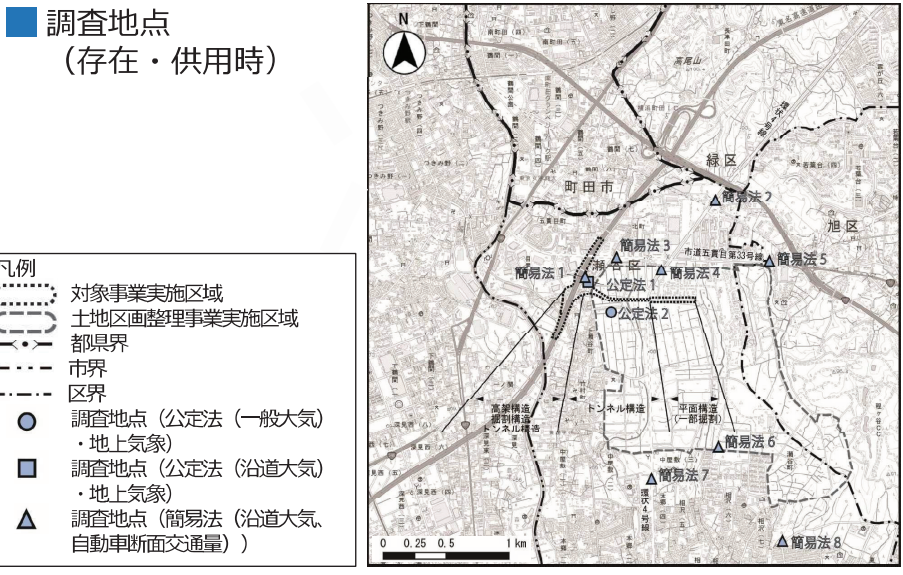
廃棄物・建設発生土

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施により発生する産業廃棄物	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	施工計画を基に発生量を推定すると共に、本事業で実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量、資源化量及び最終処分量を定量的に予測
工事の実施により発生する建設発生土		

大気質

調査地点
(存在・供用時)



予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴い変化する地下水位	【地域・地点】 対象事業実施区域及びその周辺 【時期】 工事による影響が最大となる時期	施工計画の内容を勘案し、数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等）を用いて、地下水位の変化を定量的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴い変化する地下水位	【地域・地点】 対象事業実施区域及びその周辺 【時期】 地下構造物の完成後、供用を開始し、事業活動が定常の状態になる時期	事業計画の内容を勘案し、数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等）を用いて、地下水位の変化を定量的に予測

大気質

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
大気質の状況 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	資料	対象事業実施区域近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理
	現地	「二酸化窒素に係る環境基準について」等に定める方法により測定 ・7日間×24時間×4季
気象の状況 ・風向、風速 ・日射量 ・放射収支量	資料	対象事業実施区域近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理
	現地	風向・風速の状況を「地上気象観測指針」に定める方法により測定 気温、湿度の状況を温度計及び湿度計を設置して調査 ・7日間×24時間×4季
大気汚染物質の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

大気質

予測手法（工事中）

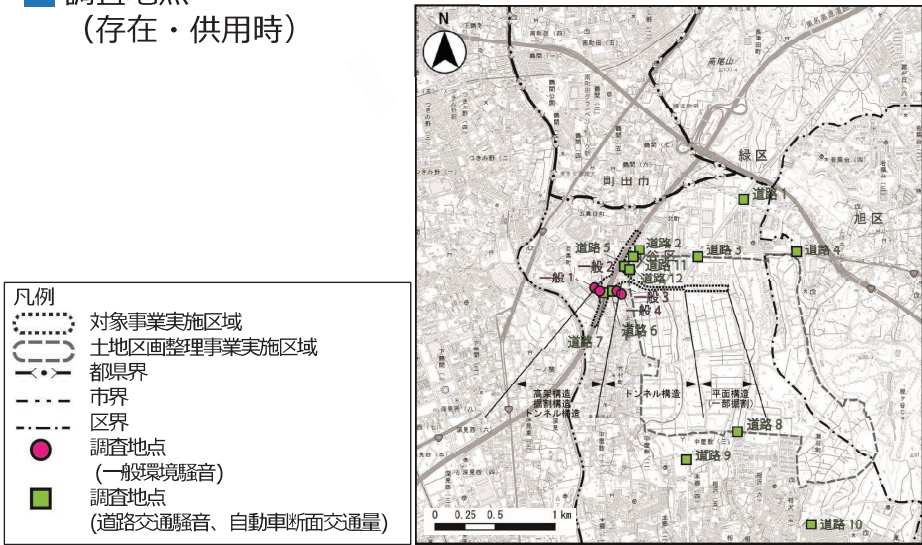
予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う大気質濃度	【地域・地点】 最大着地濃度の出現する地点を含む範囲 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値を定量的に予測
工事用車両の走行に伴う大気質濃度	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（簡易法1～4地点） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値を定量的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う大気質濃度	【地域・地点】 供用道路の走行ルート沿道として想定される道路沿道の9地点（簡易法2～8地点、ランプ部周辺1地点、区画3号線接続部（トンネル構造坑口部）周辺1地点） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値を定量的に予測

騒音

調査地点
（存在・供用時）



振動

調査手法

調査項目注	調査方法	
振動の状況 ・一般環境振動 ・道路交通振動	現地	「振動レベル測定方法」(JIS Z 8735)に定める方法に準拠し、測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
地盤の状況 ・地盤卓越振動数	現地	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、測定 ・大型車の単独走行10台
振動の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

騒音

調査手法

調査項目注	調査方法	
騒音の状況 ・一般環境騒音 ・道路交通騒音	現地	「騒音に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
騒音の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

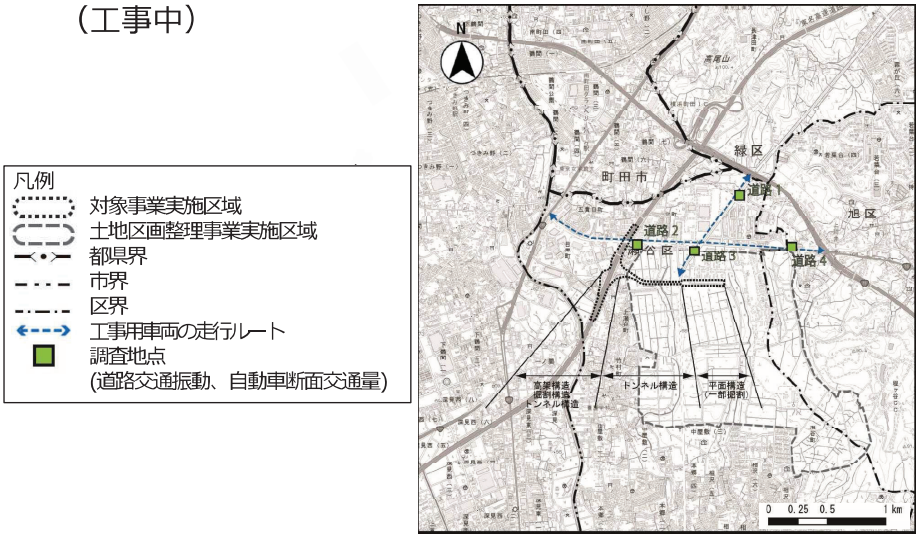
騒音

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う騒音	【地域・地点】 ランプ部周辺の対象事業実施区域から約100mの範囲 予測高さは地上1.2m 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期、時間帯	予測計算モデル(ASJ CN-Model)を用い、定量的に予測
工事用車両の走行に伴う道路交通騒音	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点 予測高さは地上1.2m（道路1～4地点） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期、時間帯	「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN-Model)」を用い、定量的に予測

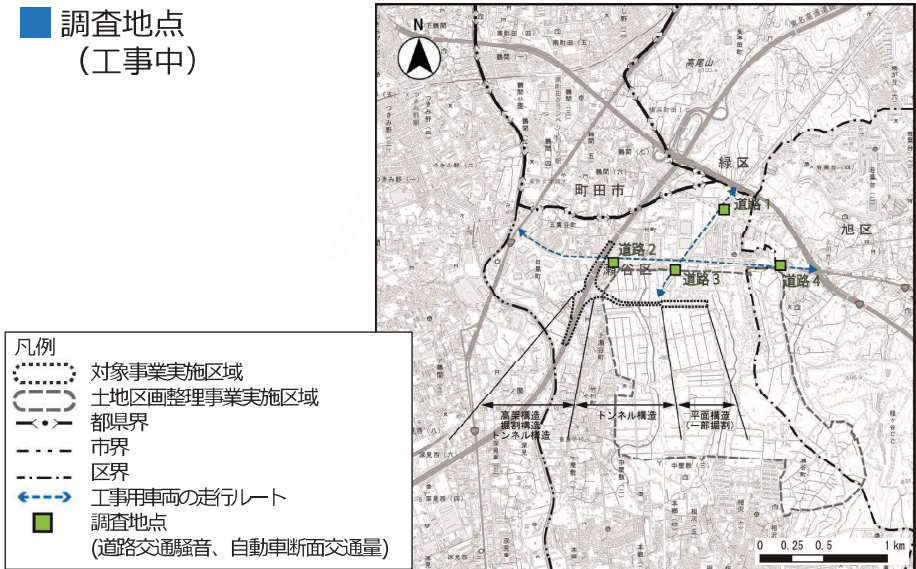
振動

調査地点
（工事中）



騒音

調査地点
（工事中）



騒音

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う道路交通騒音	【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として想定される道路沿道の12地点 予測高さは地上1.2m ランプ部周辺のマンションの主要高さ（道路1～12地点） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期、時間帯	「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN-Model)」を用い、予測

振動

調査地点
（存在・供用時）



予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う振動	【地域・地点】 ランプ部周辺の対象事業実施区域から約100mの範囲 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている振動の伝搬理論に基づく予測式を用い、定量的に予測
工事用車両の走行に伴う道路交通振動	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道 4 地点（道路 1 ～ 4 地点） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている予測式を用い、定量的に予測

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う地盤の変化	【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 工事による影響が最大となる時期	施工計画の内容を勘案し、地盤の状況及び地下水の状況について定量的な予想結果（数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等））と重ね合わせ、影響の程度を予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う地盤の変化	【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 地下構造物の完成後	事業計画の内容を勘案し、地盤の状況及び地下水の状況について定量的な予想結果（数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等））と重ね合わせ、影響の程度を予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う道路交通低周波音	【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として想定される当該地域の低周波音を代表すると予想される 1 地点（地点 1） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている予測手法に準じ、定量的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う道路交通振動	【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として想定される道路沿道の 1 0 地点（道路 1 ～ 1 0 地点） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている予測式を用い、定量的に予測

調査手法

調査項目注	調査方法	
低周波音の状況	現地	「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める方法に準拠し、測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
低周波音の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査 自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

調査手法

調査項目注	調査方法	
日影の状況 ・既存の工作物のうち、対象事業による建設予定の工作物との複合影響が生じると想定される工作物からの日影の状況	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査により調査
日影に配慮すべき農地の状況	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び必要に応じ現地踏査により調査
既存の工作物の位置及び規模	資料 現地	既存の工作物の位置及び規模を既存資料の収集・整理及び必要に応じ現地踏査により把握

注：主な調査項目を記載

調査手法

調査項目注	調査方法	
地質の状況	資料	ボーリング資料を含めた既存資料の収集・整理により把握
	現地	ボーリングによる地質調査を実施（既往調査結果を利用）

注：主な調査項目を記載

調査地点



予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
冬至日の日影の範囲、冬至日に日影となる時刻、日影に配慮すべき農地が日影となる時刻、時間数等の変化の程度	【地域・地点】 対象となる日影の情報を適切に把握し得る地域、地点 【時期】 対象事業に係る工作物の工事の完了後	対象事業の工作物の工事完了後の時刻別日影図、等時間日影図を作成し、定量的に予測

調査手法		
調査項目注	調査方法	
地下埋設物の状況 ・対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況	資料	対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況を、事業計画の整理及び既存資料の収集・整理により把握

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う地下埋設物への影響	【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 工事期間全体	対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況と施工計画を重ね合わせ、地下埋設物に係る安全を確保するための措置を整理することで、定性的に予測

調査手法		
調査項目注	調査方法	
地域交通の状況 ・日常生活圏等の状況 ・道路の状況 ・歩行者及び自転車の状況	資料	既存資料の収集・整理及び現地踏査 計画交通量は、将来推計資料により把握
	現地	交通安全対策の状況（ガードレールの設置位置や歩行空間の幅員等）を1回、現地踏査により把握
	現地	主要交差点部における時間別・車種別・方向別自動車交通量、渋滞の状況及び信号現示を調査 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回 ・混雑時（24時間）×1回
	現地	歩道部等の時間別・方向別歩行者・自転車交通量を調査 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回 ・混雑時（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

調査地点
（存在・供用時）



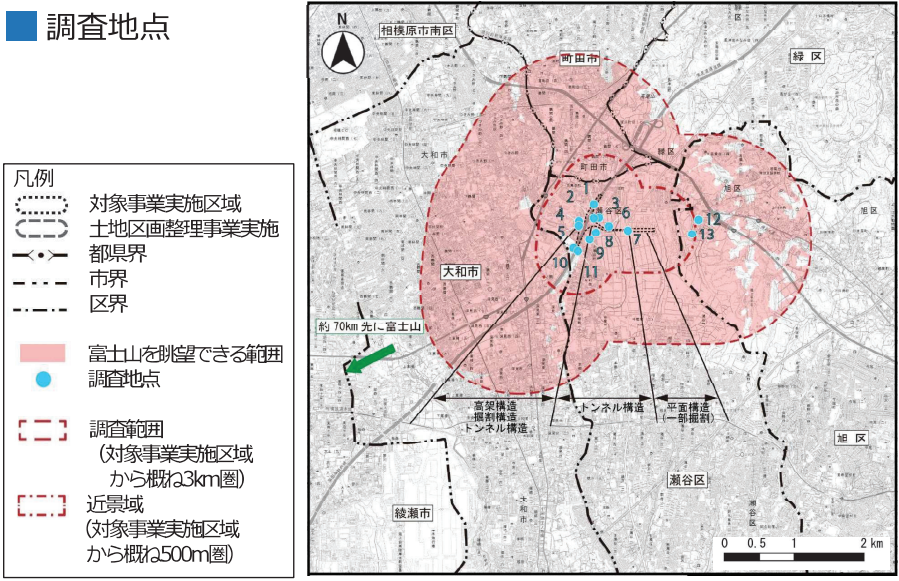
調査手法		
調査項目注	調査方法	
地域景観の特性	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
主要な景観資源の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
近景域の状態	現地	主要な眺望地点からの近景域の景観を、現地調査（写真撮影）により把握 ・各主要な眺望点の特性を踏まえて景観の状況が把握できる適切な時期（夏季、冬季）

注：主な調査項目を記載

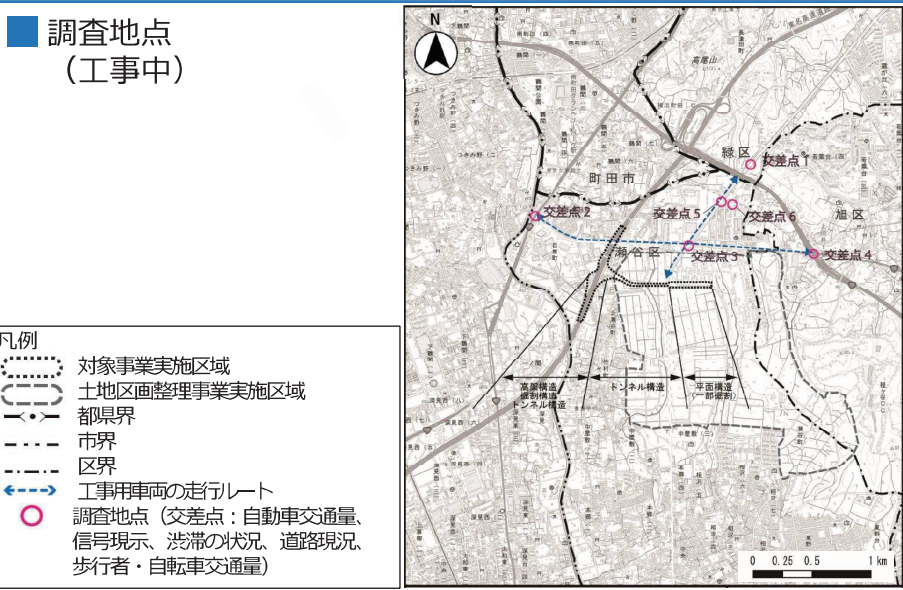
予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事用車両の走行に伴う交差点における需要率及び交通容量比（自動車）	【地域・地点】 工事用車両ルートとして想定される主要交差点の6地点（交差点1～6地点） 【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期	交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を定量的に予測
工事中の歩行者等の安全に及ぼす影響の程度	【地域・地点】 工事用車両の走行が予想される主要交差点・ルート 【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況の整理と、本事業で実施する安全対策等を整理し、定性的に予測

調査地点



調査地点
（工事中）



予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う交差点における需要率及び交通容量比	【地域・地点】 自動車の走行ルートとして想定される主要交差点の6地点（地点1～6）、及び1断面（地点7） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を定量的に予測
自動車の走行に伴う歩行者等の安全に及ぼす影響の程度	【地域・地点】 自動車の走行が予想される主要交差点・ルート 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況の整理と、本事業で実施する安全対策等を整理し、定性的に予測

予測手法（供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在により変化する景観の状況	【地域・地点】 現地調査地点 【時期】 道路完成時点	フォトモンタージュ作成により、景観の変化の程度を定性的に予測

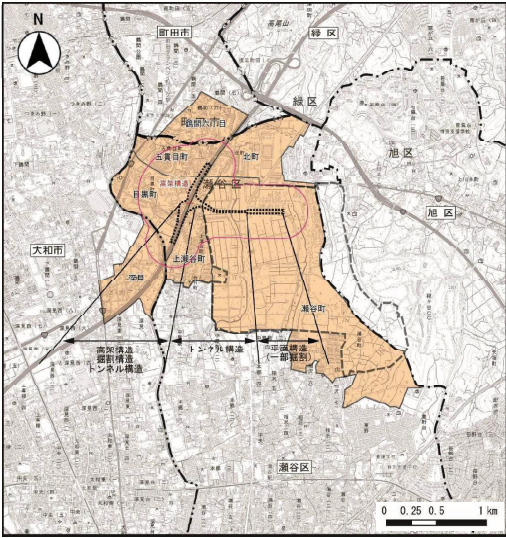
調査手法		
調査項目注	調査方法	
触れ合い活動の場の状況 ・名称、位置、規模、区域及び分布状況等 ・活動特性 ・触れ合い活動の場までの利用経路	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査 ・桜の見どころスポット： 桜の花見時期（3月下旬～4月上旬）、ハイキングコースや散歩道の秋のイベント開催時（10月～11月）

注：主な調査項目を記載

調査手法		
調査項目注	調査方法	
文化財等の状況 ・位置又は範囲 ・指定区分及びその概要	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査

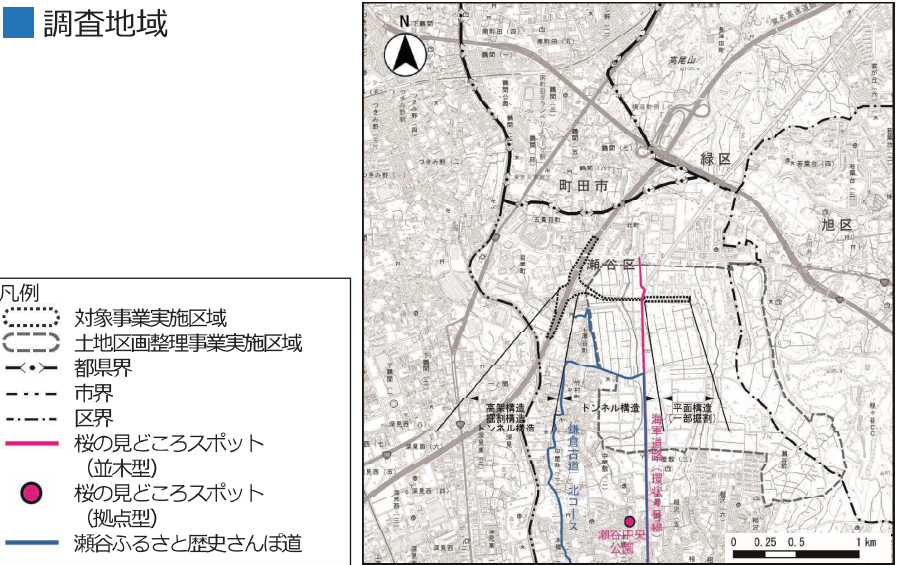
注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）		
予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地の改変の程度	【地域・地点】対象事業実施区域に隣接する範囲 【時期】工事期間全体	周知の埋蔵文化財包蔵地の位置と施工計画を重ね合わせ、改変の程度を定性的に予測



区名	町丁名	周知地域
瀬谷区	瀬谷町	全域
	上瀬谷町	
	北町	
	五貫目町	
	目黒町	
大和市	深見	一部地域
町田市	鶴間六丁目	全域

凡例	
	対象事業実施区域
	土地区画整理事業実施区域
	都県界
	市界
	区界
	桜の見どころスポット（並木型）
	桜の見どころスポット（拠点型）
	瀬谷ふるさと歴史さんぽ道



環境の保全等に関して、

- ・横浜市が定めた計画及び指針等の中で設定している目標
- ・法令等で定められている基準
- ・環境への影響を最小限にとどめる水準

等

「環境保全目標」を設定

「環境保全目標」と予測結果との対比により、評価

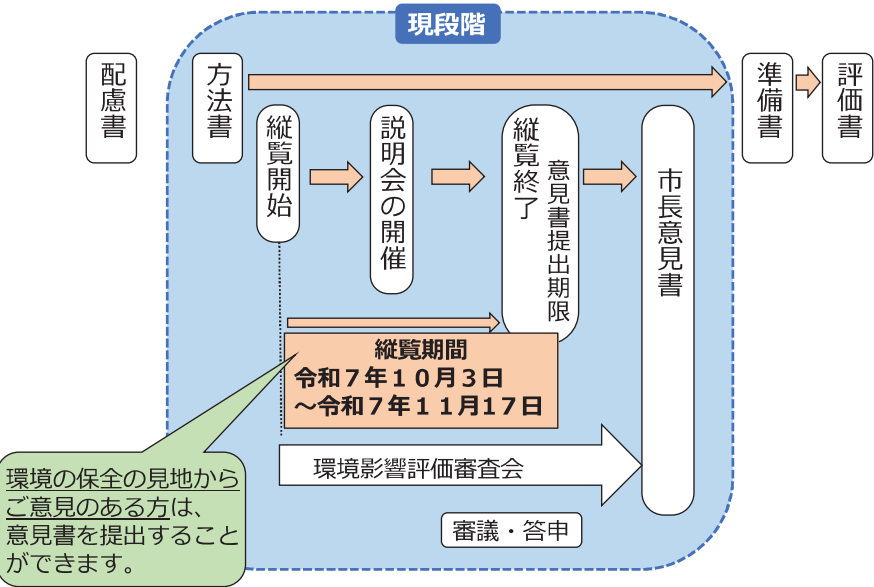
※結果等については、今後実施する準備書にて、お示いたします。

3 縦覧及び意見書の提出について

予測手法（工事中）		
予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う主要な触れ合い活動の場の変化の程度	【地域・地点】現地調査の範囲 【時期】工事期間全体	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

予測手法（存在・供用時）		
予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在、自動車の走行に伴う主要な触れ合い活動の場の変化の程度	【地域・地点】現地調査の範囲 【時期】供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

方法書対象地域



縦覧

期 間
令和7年10月3日（金）から
令和7年11月17日（月）まで（土・日・祝日を除く）

場 所
①横浜市 みどり環境局環境影響評価課
②横浜市 瀬谷区役所区政推進課広報相談係
③大和市役所 環境共生部環境・公害対策課
④町田市役所 環境資源部環境共生課,総務部法務課,南市民センター

時 間
①②午前 8 時45分～午後 5 時（①は午後 5 時15分まで）
③④午前 8 時30分～午後 5 時

インターチェンジ整備事業に関すること
横浜市 脱炭素・GREEN×EXP0推進局 上瀬谷交通整備課
TEL：045-671-4607

市ホームページでの公開

横浜市 新たなインターチェンジ

検索

ご清聴ありがとうございました。

図書館における閲覧

期 間
令和7年10月3日（金）から

場 所
①中央図書館（横浜市西区老松町 1）
②瀬谷図書館（横浜市瀬谷区本郷3-22-1）

市ホームページでの公開

横浜市 環境アセスメント 新たなIC

検索

提出期限

令和7年11月17日（月）まで
（窓口での受付は、土・日・祝日を除く）

提出方法

①または②の方法で提出してください。

①意見書用紙にご記入の上、以下の提出先へ
持参または郵送（当日消印有効）

・横浜市みどり環境局環境影響評価課

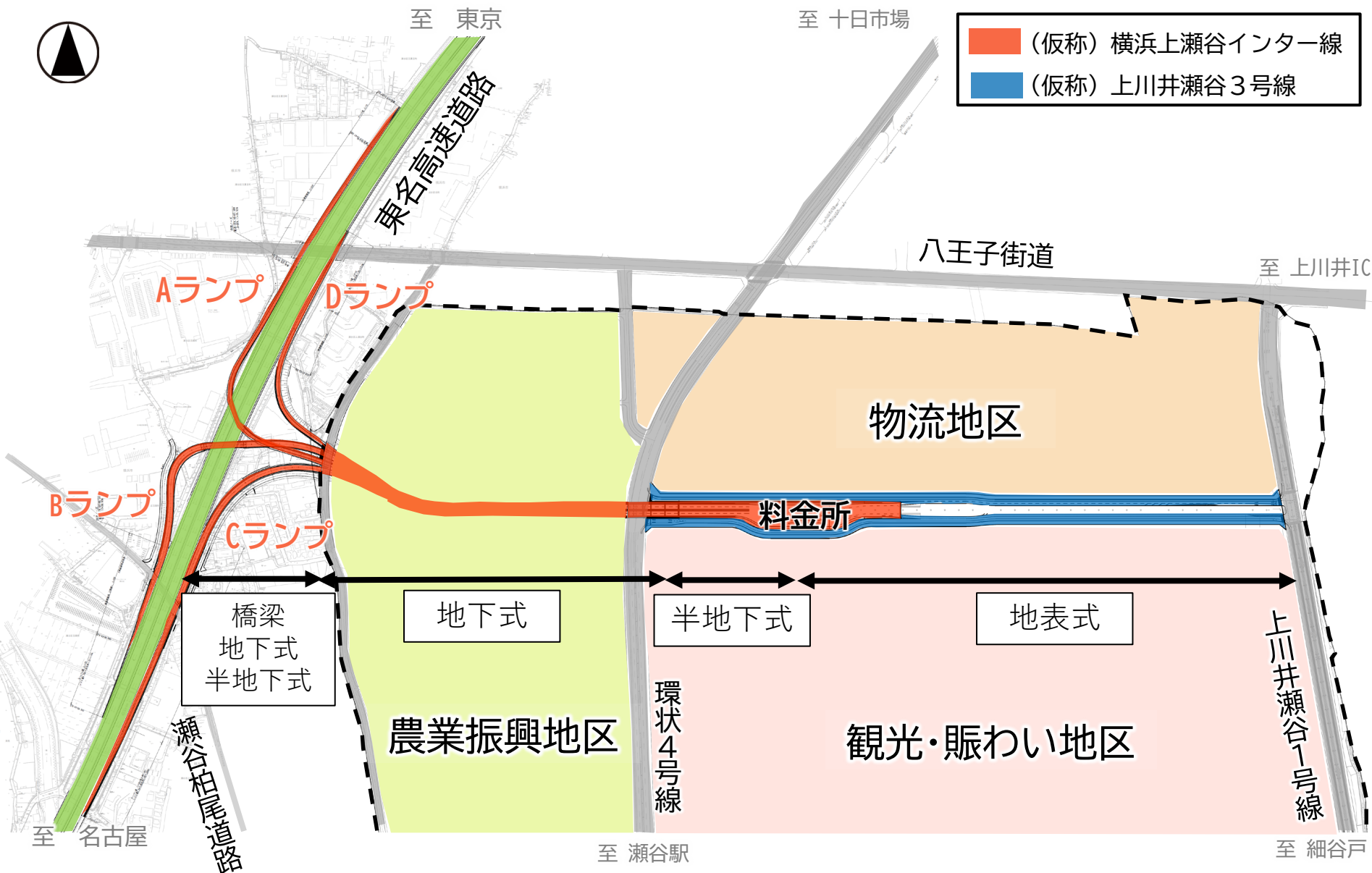
※意見書用紙は、縦覧窓口で配布しています。
（町田市役所は環境共生課のみ）

②横浜市ホームページから電子申請で提出

計画平面図

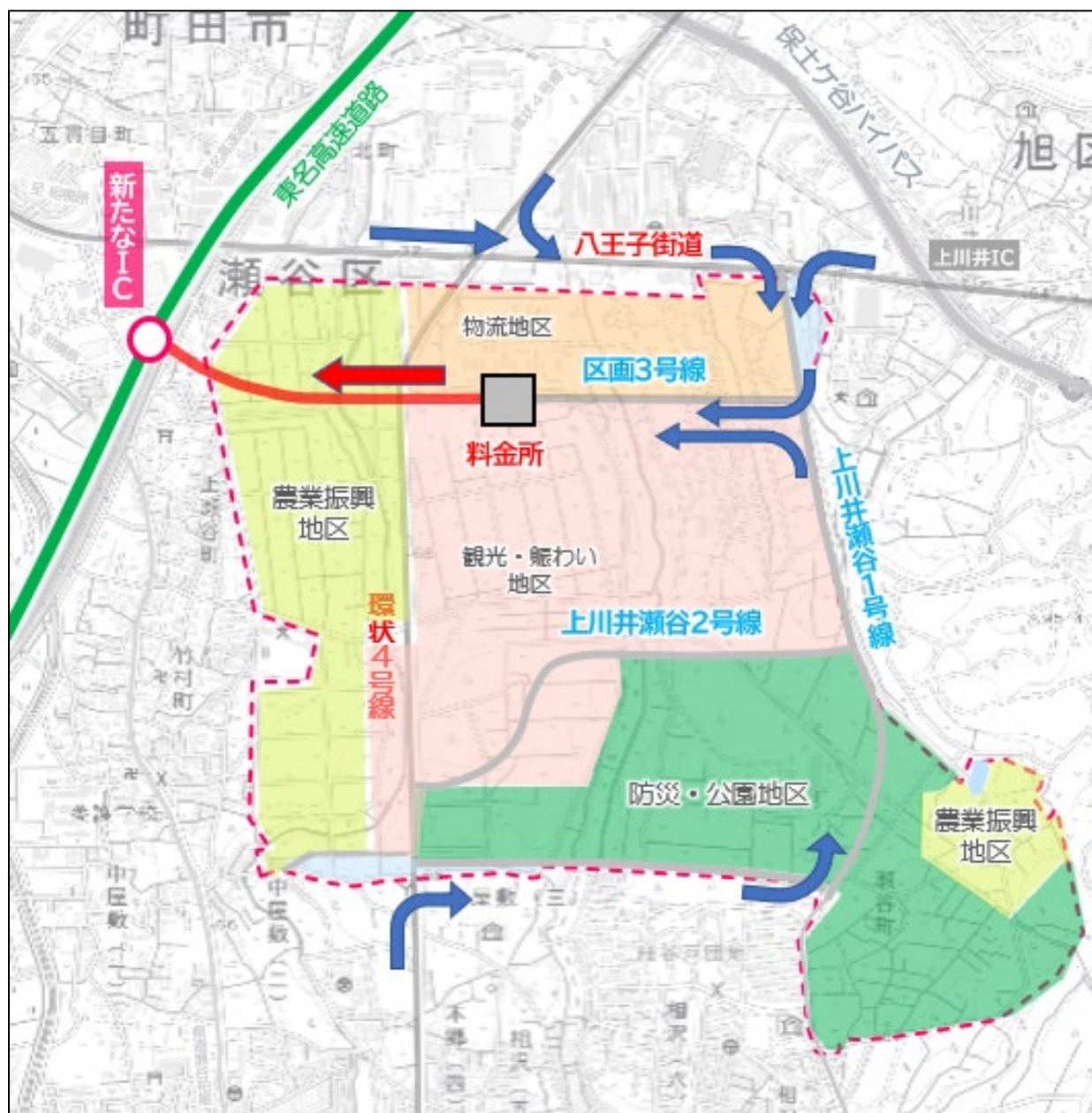
補足資料 1

事業者説明会資料より



料金所への主なアクセスルート（案）

補足資料 2



補足資料 3

